

57. 桑新品種の県内における適応性

福島県蚕業試験場栽桑部・平成7～11年度福島県蚕業試験場年報

- 1 部門名 蚕糸一栽桑一品種 分類コード 09-01-01000000
2 担当者 土井則夫・森田悦夫・藤田智博
3 要旨

近年、農林水産省で育成登録された桑新品種みつしげり、ゆきまさり、みつみなみ、たちみどり、ゆきあさひ、ひのさかり、はちのせ、わせゆたかの8品種について対照品種を改良鼠返および一ノ瀬とし、福島県における地域適応性を調査した。その主な品種特性をあげると下記のとおりである。

(1) 平均最長枝条長は春切株では、わせゆたか、ゆきまさりで長く、夏切株では、わせゆたか、一ノ瀬、みつしげり、改良鼠返で長い。

(2) 枝条の太さは、ゆきまさり、一ノ瀬、みつしげりで長く、みつみなみ、ゆきあさひで短い。

(3) 春蚕期10a当たり新梢量は、みつしげりが最も多く、次いでみつみなみ、たちみどりである。晩秋蚕期10a当たり葉量は、みつしげり、みつみなみ、一ノ瀬が多い。年間10a当たり新梢・葉量は、みつしげり、みつみなみ、たちみどりで多い。

(4) 萎縮病株割合は、ゆきまさり、ゆきあさひ、わせゆたかで高く、みつみなみ、たちみどり、はちのせで低い。

(5) 調査結果を総合すると、対照品種に比較して、みつみなみは萎縮病に抵抗性で10a当たり新梢・葉量も多く、枝条が細くしかも枝条の倒伏が少ないなど本県での適応性が高い品種であることが認められた。ただし、この調査は梁川町の1カ所のみであり、県内での適応地域は中通り地方に限られる。